

2024

12.18 (水)

12:10

12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_6douSokQRNW-VTcHqgl_kA

【技術支援】九州大学 Q-AOS

薬剤耐性菌の動向と対策



Key Words

薬剤耐性菌

抗生物質

感染症

サーベイランス

ワンヘルス

下野 信行 教授

九州大学病院

九州大学医学部を 1986 年に卒業し、研修医、研究生、市中病院の勤務を経て、1998 年から 3 年間カリフォルニア大学バークレー校に留学し、結核菌の病原因子について研究しました。帰国後 2002 年からは、九州大学病院で感染症の診療、つづいて感染制御に従事してきています。2013 年からは九州大学病院グローバル感染症センター長、2021 年からは総合診療科教授を併任しています。

感染制御では、薬剤耐性菌の検出状況の把握や感染対策を中心に活動しています。いずれも個々の病院だけでなく、地域全体をあげての活動が大事で、福岡 ICT 交流会や地域でのサーベイランスなどを行っています。

1950 年以降、抗生物質の開発により、肺炎をはじめとしたさまざまな感染症の治療が容易になり、その恩恵は計り知れません。一方で、薬剤耐性菌の増加は世界的な問題となっており、抗生物質で治療可能だった感染症の治療が困難になるリスクが高まっています。2011 年には WHO も「No action today, No cure tomorrow」として警鐘を鳴らしました。

薬剤耐性菌を抑制するための抗菌薬の適正使用などの取り組みは世界中で行われており、日本でも「薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン」が発表されています。国内における薬剤耐性菌のサーベイランスも充実してきましたが、国内でも地域差が認められ、とくに西日本では薬剤耐性が高い傾向にあります。医療分野では、地域の医療機関同士の連携を強化しながら、薬剤耐性菌対策に取り組んでいます。しかし、医療機関だけでなく、動物・環境分野や一般市民に至るまで、全体の意識向上を含めた対策が必要です。